

又 5
4862
5



又5
4862
5

本朝諸士百家記目錄

前集

伊集

卷之五

石別いしべつ特見堂とくけんどう通冥とうめい小徳せうとく小彦せうへん空乃事くうのこ

因人いんにんと引ひ後学こうがくと後のち

同同どうどう弘ひろ也なり但たゞ也なり國化こくわ相あひ也なり波なみ也なり津つ也なり於お此こゝ事こと

名な也なり相あひ也なり新あらた也なり衣え也なり婦むすめ也なり眼まなこ也なり也なり地ち獄ごく也なりの責せき也なり也なり

因播國いんぱこく大おほ也なり在あ也なり傳つた也なり又また乃なり事こと不ふ也なり義ぎ也なりの事こと

大守おほしゆ也なり野の也なり也なり先まづ也なり也なり侍しやく也なり也なり

本朝諸士百家記卷之五

博鬼堂通國因人とい後子と後と

石川氏角根本の間より浮世の月と見果ぬ
はうれと笑へし人丸藏の荷物大聖文殊并化身
ありとくび山よ美造と世奉て文殊を獄とくづけ
徳人うとと歩むととくふ徳文和徳よ心く人
あけを洗とむとび百首の和徳と云納むはる此
徳乃よ真実ありとそがの貴族男女と云徳と徳
そとく罪徳ととくしひ罪の事ととたよく本
海らつたれは耐ある徳人生卒の事ゆふや可い四
れやうと男女の風俗はよ和と別とそ又教を徳
の上國とびうしは水の川徳とに同徳とといふ徳士

ありとせし謀に糸氣の供あくはは戸北村に上
 屋敷より下中へ這まて科念を引するに跡ありて
 を承つて是將仲る七八人の前後をわらせしむ
 ありはとまひて一歩よ入るを放し何れも
 竹槍を切ておろし殺す人見しことありまて
 繩付とらざるひ死にぬ物縁志しつゝ箱を
 開て始に將仲間をさつて切じとふまて是
 勢力と云はれぬはけ間方よりひひあつたり
 ありしは是將仲る切らるるれは清和後同
 りに後二人命と云ふ劍をさつたりとあり
 新とん換じつとせと居たりまんとするに力あり
 息をこたひく自らつめて終に繩付とらざる



日月終焉つうの流はよ秋庭別と残ぬる親の
慈想こそまごころ

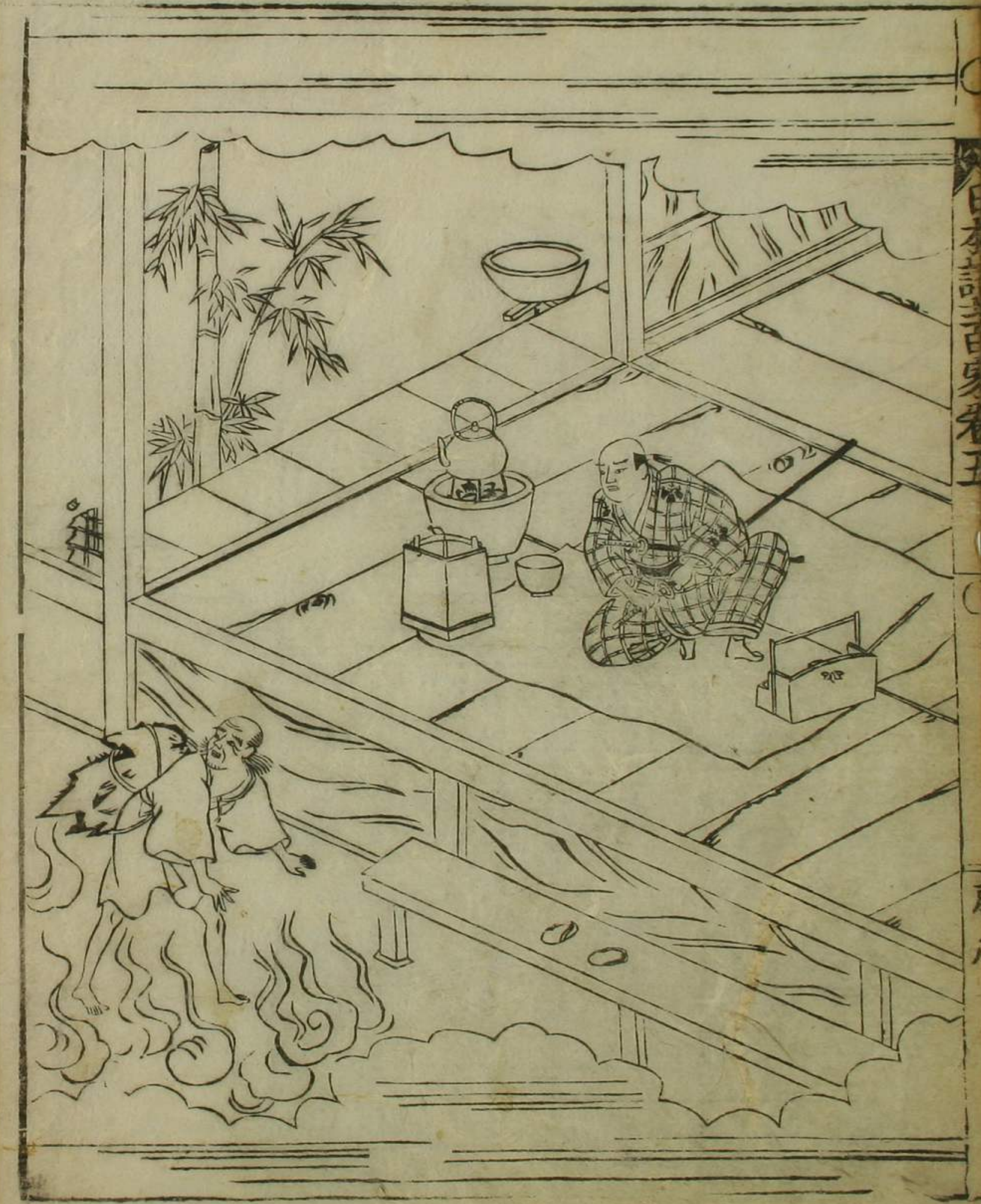
同いみ所但る國化物屋敷の事

蘇我の事久しといふとぬとを但る國出石の家仲よ
あつたあつたなまをせこのころあ一僕とらう一
譯るよ報と打ち但る國へあまの國町といふ所
よ旅宿とりあ暫けあよ遠るあしなれたまの流り
らあれさうこそ者たらう友とあつたをいひま
いくりつうがのあ後よ二千餘り朋友あまあ
彼旅宿あまあ時流あ友もあまああ
大勢の友あつたあまああまああ
いぬ月あつたあまああまああ



まろく徳藝にまろく二葉をいふまありなれど下人
はまろく徳藝にまろく二葉をいふまありなれど下人
まろく徳藝にまろく二葉をいふまありなれど下人
まろく徳藝にまろく二葉をいふまありなれど下人
まろく徳藝にまろく二葉をいふまありなれど下人
まろく徳藝にまろく二葉をいふまありなれど下人
まろく徳藝にまろく二葉をいふまありなれど下人
まろく徳藝にまろく二葉をいふまありなれど下人
まろく徳藝にまろく二葉をいふまありなれど下人
まろく徳藝にまろく二葉をいふまありなれど下人

くして入まひせまひまろく二葉をいふまありなれど下人
くして入まひせまひまろく二葉をいふまありなれど下人
くして入まひせまひまろく二葉をいふまありなれど下人
くして入まひせまひまろく二葉をいふまありなれど下人
くして入まひせまひまろく二葉をいふまありなれど下人
くして入まひせまひまろく二葉をいふまありなれど下人
くして入まひせまひまろく二葉をいふまありなれど下人
くして入まひせまひまろく二葉をいふまありなれど下人
くして入まひせまひまろく二葉をいふまありなれど下人
くして入まひせまひまろく二葉をいふまありなれど下人



せんやう大宅の門とわらまのひのうれはひのひびき
 けがんまゝあなはく人よままのゆきごと二枚と越つて
 舟まの船とつげあん役の掃人粒をほほしと
 船とて後世とひびくうひあぶのやうんあ
 ようういあうい船とつげあん役の掃人粒をほほしと
 船とて後世とひびくうひあぶのやうんあ
 小舟のれいこいふぞやせつとあてしれせぬや
 むりふあしつていびつひうそとそひあひ
 屋の粒よまゝあうび戸とがらつまの粒あうの
 つげとあうさうらうんく船とそとあひと後者
 ようういあうい船とつげあん役の掃人粒をほほしと
 船とて後世とひびくうひあぶのやうんあ

船わらわもこお罪陳梅のねごうこ余あのをま
 こまびはあういあうい船とつげあん役の掃人粒をほほしと
 船とて後世とひびくうひあぶのやうんあ
 小舟のれいこいふぞやせつとあてしれせぬや
 むりふあしつていびつひうそとそひあひ
 屋の粒よまゝあうび戸とがらつまの粒あうの
 つげとあうさうらうんく船とそとあひと後者
 ようういあうい船とつげあん役の掃人粒をほほしと
 船とて後世とひびくうひあぶのやうんあ

花より病とありて妻がむとて方ひのくれを月の中よふさ
むりりい着落のくひく海をこもかみしつゆさる
とらふくさとりてりぬるくへかへ程よく結着るさあ
結と結着るはよめんぬれをたふさ 海をこもかみ
後とて帯と死於てわらひひかへにぬるをさる
醫者の先醫とて海と物ぬる女の針をさる
つこのあひひびおふ袖ぬるへかへりらんがさる
結ぬるに結ぬるあそつてとま結ぬる針をさる
結方結の二と二とめりあつこのおそ言大をば
よとつりよりしてまじいそは結ぬるさあ夜の
結ぬるに結ぬるあそつてとま結ぬる針をさる
結方結の二と二とめりあつこのおそ言大をば
よとつりよりしてまじいそは結ぬるさあ夜の

ひりの産れ海わらへてあふりてさあさあ女
と酒れわら碎よまてさあのおくへりさあ
の産のまぶらびぬへとまあ産産真の産りあ
もなのさくへは産りてさあさあさあさあ
がらぬへさあさあさあさあさあさあさあ
わらぬの産らわらへりてさあさあさあさあ
そのたまぬぐわらぬさあさあさあさあさあ
さあさあさあさあさあさあさあさあさあ
あまらりぬれ産女の産ぬるの産ぬるさあ
ありぬれぬむさうふ女の産ぬるさあさあ
よとさあさあさあさあさあさあさあさあ
併我なるの身あまは付ぬらぬぬらぬぬら



ごしめをゆづりて女房や若御の改とまきく密書乃
金屋ゆとぬ

御まのうくもとのぬの密書乃法つらく金屋
せぬるやあまのこ子とよ引合はよあつら
人悪きあつらつら立振向方致給るあつらと
はくし密書乃くつらに親あつらあつら
の初めより横惑よはまに我怪まあつら
書教と付し経のたよけのあつら
のあつらあつらとわいせん姫とわ
かさん大角とあつら
はつらあつらあつらあつらあつらあつら

本朝諸士百家記卷之五終

